

【テーマ】

「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」

【主催】図書館分科会

活動報告

日時：2022年7月6日（水） 14:30 -16:00

場所：オンライン分科会

出席者：94名

1. 研究内容

「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」をテーマとして、図書館分科会主催のオンラインイベントを開催しました。

当日は、まずはじめに、国立国会図書館総務部企画課 課長補佐 奥田様より開催テーマに関連して国立国会図書館でのデジタルシフトの動向や大学図書館での活用や対策などをご紹介いただきました。

イベント後半は講演を受けての質疑応答と意見交換を行い、他大学が取り組んでいる事例や課題に関して共有する場となりました。

（内容詳細については「3項概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

14:30 分科会開始

○開催挨拶

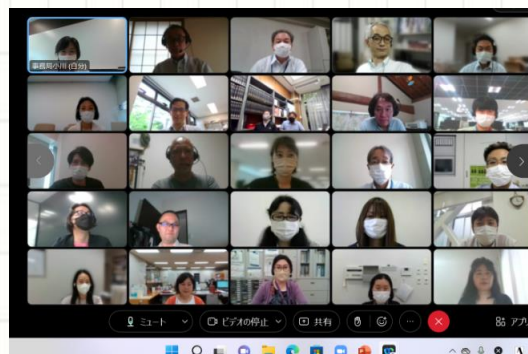
○ご講演 「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」
国立国会図書館 総務部 企画課
課長補佐 奥田 倫子 様

○質疑応答・意見交換

○終わりの挨拶

16:00 分科会終了

【分科会の様子】



「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」

私立大学キャンパスシステム研究会図書館分科会が、7月6日にオンラインで開催されました。今回は国立国会図書館総務部企画課 課長補佐 奥田氏をお招きし、同館のデジタルシフトのビジョンや状況について、大学図書館との関連を踏まえてご説明いただきました。その後参加者からの質疑応答を行いました。

■ オンライン開催で参加者が増加

まず分科会開催に際して図書館分科会運営委員の神田外語大学吉野氏から、「今日は大学関係者だけで63名の申し込みがあり、活況なのは大変喜ばしいことです。図書館には業務委託等の職員も多いので、デジタル技術により参加しやすくなったのではないのでしょうか。昨今、図書館は紙の書籍だけでなく、電子的な資料、情報も扱うようになり、様々な悩みがあると思います。今回の国会図書館の取り組みをぜひ参考にしてほしいです」と開会の挨拶があり、その後講演に移りました。

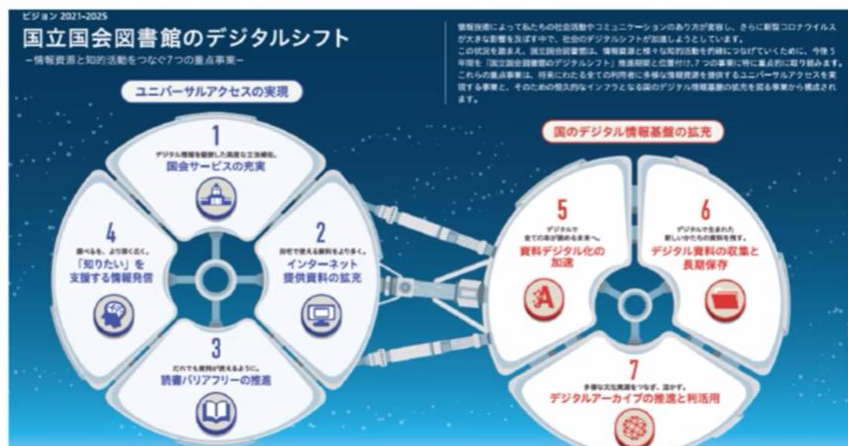
■ 講演：

「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」 国立国会図書館総務部企画課 課長補佐 奥田倫子氏の発表より

○ 「国立国会図書館ビジョン2021-2025」で7つの重点事業を定義

本日は国立国会図書館（以下、当館）が昨年4月に公開した、2021年から5年間の方針を定めたビジョン「国立国会図書館ビジョン2021-2025」と、それに基づく各種事業の進捗状況をご説明します。今回のビジョンでは、情報技術による社会活動やコミュニケーションのあり方の変容・変革、コロナ禍を契機とするデジタルリモートアクセス強化の要望を背景に、7つの重点事業を定めました。

1. 国立国会図書館のビジョン：7つの重点事業



1. 国会サービスの充実

第一義であり、デジタル情報を駆使した高度な立法補佐の提供を目指す。

2. インターネット提供資料の拡充

「自宅で使える資料をより多く」をキーワードに、インターネットや身近な図書館で閲覧できるデジタル資料を拡充。

3. 読書バリアフリーの推進

読書に困難のある利用者向けにバリアフリー対応資料の収集、検索、提供サービスと利用しやすいテキストデータの制作を支援。

4. 「知りたい」を支援する情報発信

図書館職員の専門知識を活かして膨大な資料や情報をキュレーションし効率的な調べ方のガイドや、知識を深めるための資料情報等を発信。

5.資料デジタル化の加速

デジタルで全ての本が読める未来へ向け、5年間で100万冊以上の所蔵資料のデジタル化を行い、テキスト化も行って、検索や機械学習に活かせる基盤データとする。

6.デジタル資料の収集と長期保存

電子書籍、電子雑誌の制度収集を整備し、デジタル資料の長期保存に取り組む。

7.デジタルアーカイブの推進と利活用

多様な文化資源をつなぎ、活かすため、幅広い分野のデジタルアーカイブを連携させる、ジャパンサーチの取り組みを推進。

重点事業1から4を「ユニバーサルアクセスの実現に関わる事業」、5から7を「国のデジタル情報基盤の拡充に関わる事業」と位置付けています。2～7の進捗状況をご説明します。

○資料の本文テキスト化等、デジタルシフトが進行中

5.資料デジタル化の加速から説明します。当館では2000年から資料デジタル化を本格的に開始し、著作権法の改正や補正予算が後押しして、現在、図書128万点、雑誌135万点等合計311万点がデジタル化され、閲覧システムである国立国会図書館デジタルコレクション（以下、デジコレ）上で提供されています。順次、本文をテキスト化して全文検索も可能にします。

デジタル化資料のOCRテキスト化にあたっては、商用のOCRサービスを機械学習で当館資料用に最適化し、2021年までに約247万点、2億2千万コマの画像をテキスト化しました。また、開発したOCR処理プログラムは、オープンソースとして公開しています。



次に**2.インターネット提供資料の拡充**に関連して、個人向けデジタル化資料送信サービス（以下、個人送信）について説明します。改正著作権法に基づき今年5月19日に開始され、絶版等の理由で入手困難な資料を、個人の登録利用者が自宅のパソコン等で利用できるようになりました。6月末までに約3万人が利用規約に同意し、サイトへのアクセスも非常に伸びています。現在は閲覧のみ可能ですが、今年12月にデジコレをリニューアルし、複製予防措置をした上で印刷も可能にする予定です。

一方図書館送信については、現在の参加館は1,369館、うち大学図書館が621館です。法律の改正により他の図書館から提供された当館未所蔵かつ入手困難なデジタル化資料の提供も可能となったため、ぜひご協力をお願いします。

[国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業へのご協力をお願い | 国立国会図書館—National Diet Library \(ndl.go.jp\)](https://ndl.go.jp)

データ送信に関しては、個人送信だけでなく各図書館等による公衆送信も昨年行われた著作権法改正の柱の一つでした。来々年（令和5年）度の施行に向けて、今まさに詳細を検討中です。

3.読書バリアフリーの推進も成果が出てきています。視覚障害者向けOCR処理プログラムの研究開発を行い、開発したオープンソースのプログラムはCC BYとして、また著作権保護期間満了分のテキストデータについては、パブリックドメインとして、NDLラボのサイト等で提供しています。

読書バリアフリー法に掲げるアクセシブルな電子書籍等の量的拡充に貢献するために重点事業5で作成したテキストデータについても、DAISYデータ同様、視覚障害者等用データ送信サービスを通じて提供できるよう調整中です。

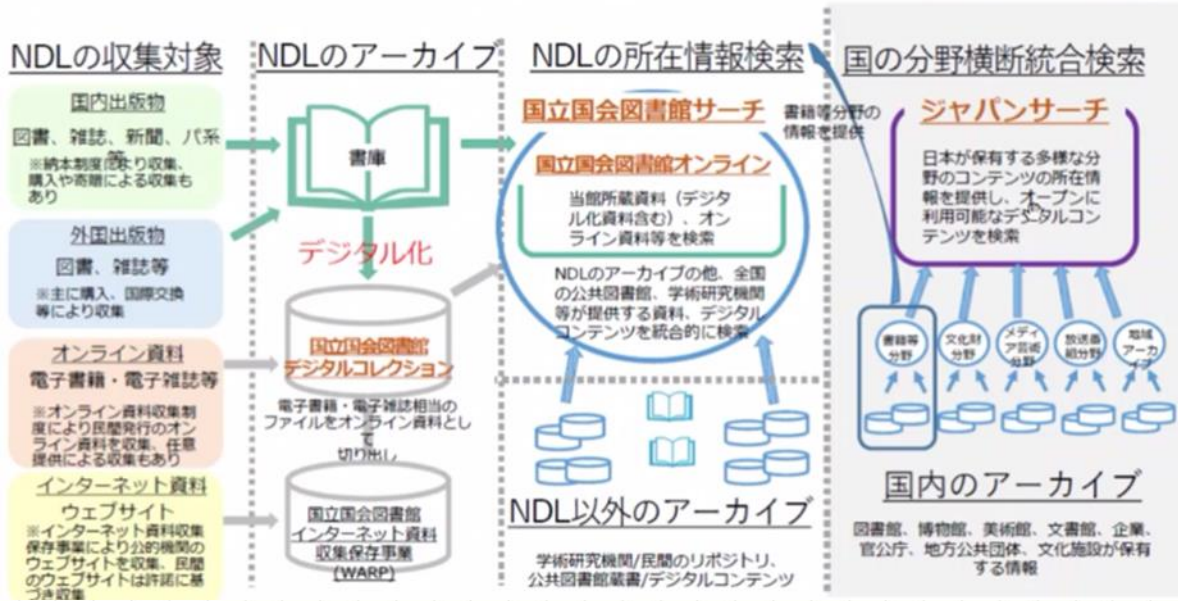
6. デジタル資料の収集と長期保存に関連し、オンライン資料の制度収集について説明します。資料の公的/民間発行、DRMあり/なし、有償/無償等によって扱いが異なりますが、令和5年1月1日から多くのインターネット資料が納入対象になります。

当館では、前述のデジタル化資料311万点に加え、納入されたオンライン資料が140万点、USBメモリや光学ディスクのパッケージ資料が90万点所蔵しています。これらのパッケージ媒体は、紙と比べ寿命が短く、再生機器の問題や物理的破損のリスクもあるため、長期利用保証のための基本計画を策定し、取り組みを進めています。

4. 「知りたい」を支援する情報発信について説明します。今年3月にオープンしたNDLイメージバンクは、浮世絵等の資料に分かりやすい解説を加えて、電子展示会として紹介しているサイトで、非常にアクセスが伸びています。また、リサーチナビという調べ方案内のページをより分かりやすくしました。

重点事業7

2. デジタルシフトの進捗：デジタルアーカイブの推進と利活用



28

最後に**7. デジタルアーカイブの推進と利活用**についてご説明します。当館は、紙の有形資料、オンライン資料、インターネット資料を収集してデジコレに登録しており、当館の検索システムNDLオンラインで所在やメタデータを確認できます。NDLサーチは、国内図書館の総合目録として機能しており、当館の資料のみならず、国内の図書館等の目録を検索できます。ジャパンサーチは分野横断統合検索システムです。図書館に限らず、博物館、美術館のコンテンツの所在情報を収録しています。いずれも、コンテンツそのものを持つシステムではなく、メタデータの検索システムで、当館は、ジャパンサーチのシステムの運用を担当するとともに、NDLサーチを通じて書籍分野のつなぎ役の役割を果たしています。今年3月に、NII、JST等の協力を得て、メタデータ流通ガイドラインを策定しました。現在ドラフト版を公開していますので、ぜひフィードバックをお寄せください。

当館ではデジタルシフトを支える人材育成にも取り組んでおり、ITに関する研修等を継続的に行っていますが、ご紹介した7つの重点事業は、当館だけで達成できるものではありません。特にジャパンサーチの取り組みは各大学図書館、公立図書館のお力が必要ですので、引き続きご協力をお願いします。

■まとめ

講演の後、質疑応答が行われました。「絶版の本の中に、学生は電子書籍として購入できるが、図書館では購入できない資料がある」といった課題を共有したほか、「図書館システムとして、国会図書館のデジタルシフトに対応するために必要なことは」との質問に対し、奥田氏から「デジタルアーカイブを作るシステム等を提供する場合は、ぜひ『メタデータ流通ガイドライン』を参考にして、スムーズにデータ連携できるようにしてほしい」との回答がありました。

4. 参加校 [33校57名] ・参加企業[7社37名] ・参加総数[94名]

愛知大学[1] 亜細亜大学[1] 追手門学院大学[1] 神奈川大学[1] 金沢美術工芸大学[1] 関西国際大学[1] 神田外語大学[2] 共立女子大学[1] 工学院大学[1] 國學院大學[2] 産業能率大学[1] 秀明大学[1] 順天堂大学[2] 成蹊大学[1] 清泉女子大学[1] 専修大学[2] 中部大学[2]	津田塾大学[2] 帝京大学[3] 同志社女子大学[1] 東海大学[1] 東京都市大学[3] 東京農業大学[2] 東京理科大学[2] 東洋大学[2] 日本女子大学[1] 日本福祉大学[1] 福岡女学院大学[2] 明治大学[7] 立命館大学[3] 龍谷大学[2] 流通経済大学[1] 早稲田大学[2]	国立国会図書館[1] 株式会社セールスフォース・ジャパン[1] ダイロン株式会社[1] 富士電機ITソリューション株式会社[1] 富士通株式会社[1] 有限会社ハーティサービス[1] 富士通Japan株式会社[31]
---	---	--

5. 所感（図書館分科会運営委員会）

コロナ禍がはじまる2020年と相前後して著作権法の改正が検討され、オンラインでの配信なども可能とする動きが加速されました。特に国立国会図書館では、これまで図書館を対象として提供されていたデジタル資料送信サービスが個人向けにも開始されるなど、大きな転換期となりつつあるのではないのでしょうか。

今回は、国立国会図書館の総務部企画課課長補佐 奥田 倫子様、国立国会図書館でのデジタル化について広く、そして過去から未来へと詳しいお話をいただきました。

ご参加いただいた大学図書館でも今後の利用者サービスの展開や資料のデジタル化あるいはサービス自体のデジタル化を検討される際のご参考に一助となることを願っております。

多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、[「CS研・IS研情報交換サイト」](#)に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。

（新規入会ご希望の方は、右下の事務局まで、お手数ではありますがご連絡ください。）

URL : <https://www-std01.ufinity.jp/csiken/>

○情報交換サイトをご覧になるにはIDとパスワードが必要となります。お持ちでない場合は以下のサイトにてお申込みください。

お申込みサイト : <https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/46757>

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

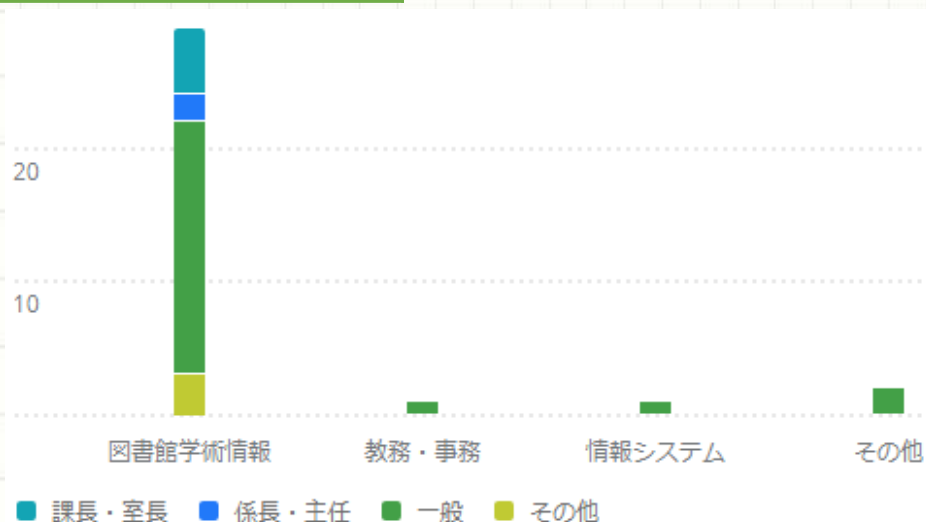
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

富士通Japan株式会社 戦略企画統括部内

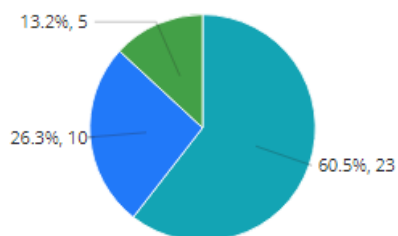
E-mail : fj-csken-secretary@dl.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：33／57（大学関係者のみ）】

■ 担当業務と役職について

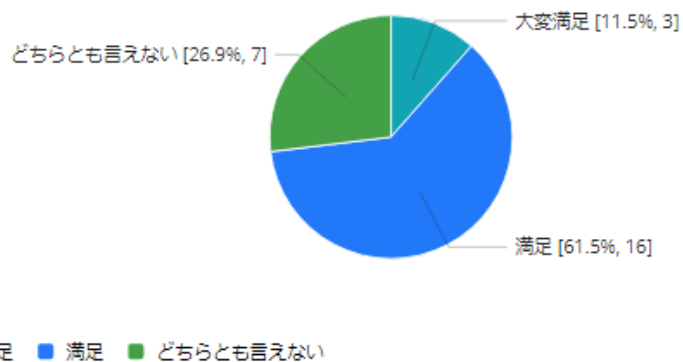


■ 参加した目的について



■ 国立国会図書館の先進的な取り組み・考え方を知りたい ■ 他大学のデジタルシフトの状況を知りたい ■ 図書館DX推進計画策定に向けた情報収集

■ 本日の分科会の全体満足度について

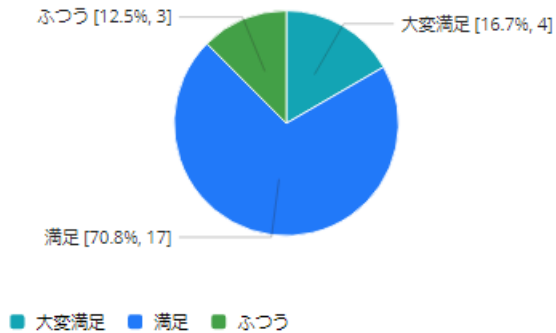


■ 大変満足 ■ 満足 ■ どちらとも言えない

■全体満足度の評価理由について（抜粋）

- 国立国会図書館の先進的な取り組みについて、詳細な内容を知ることが出来ました
- 国立国会図書館のサービスの詳細と、今後予定される事業について知ることができたから。
- オンラインで開催していただいたことにより参加しやすかった。内容も国立国会図書館のデジタルシフトについての要点を絞って説明していただいたので分かりやすかった。
- タイトルには大学図書館とあったので、大学図書館に関連する部分などにもう少し焦点を当てていただいてもよかつたかなと思いましたが、そもそもNDLの取り組みが非常に広汎なものなので、時間的に難しかったかと思います。
- 国立国会図書館が取り組んでいるデジタル化ならびにその背景を知ることができ、大変満足いたしました。IT人材育成のための方針も2012年には策定しており、先を見据えた行動の速さに大変驚いたところです。ただ、時間も限られていましたので、より多くお話を聞きたかったと思い、満足いたしました。
- 「国立国会図書館のデジタルシフトと大学図書館」というタイトルに対して、講演内容として大学図書館とのかかわりに振った部分が見えなかった。
- 国立国会図書館は、先を見据えて計画的にデジタルシフトをしていることがわかったこと、そして、それを今後、大学図書館でどのように取り組まなければならない課題があると意識できました。
- 国立国会図書館の考え方、進め方はわかったけれども、それを大学へどう落とし込めるかが想像つかなかった。
- 教員や学生が希望する資料については、どうしても国立国会図書館がお持ちの資料に頼らざるを得ないので、国立国会図書館のデジタル化の具体的な情報を知りたいと思った。先進的なDX化は当面先の話であるが、現状をお聞きできるいい機会であった。

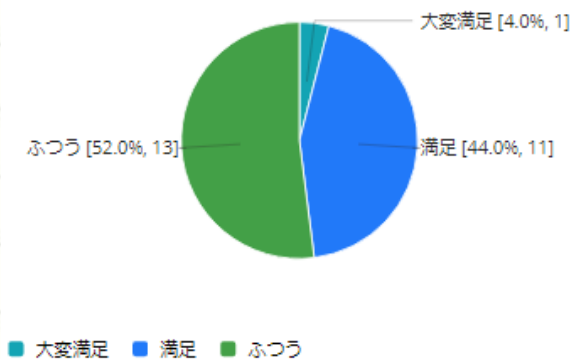
■満足度－開催テーマについて



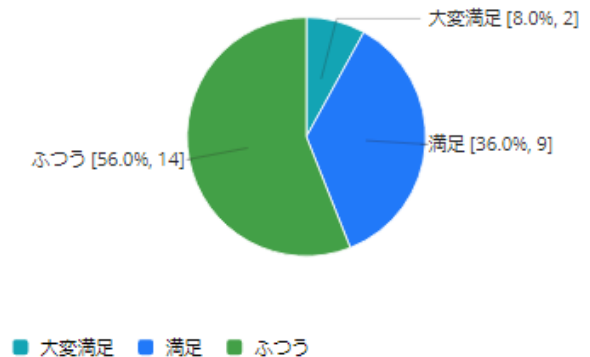
■満足度－国立国会図書館様の講演について



■満足度－意見交換について



■満足度－時間配分について



■ 次回以降取り上げて欲しいテーマについて（抜粋）

- 図書館×居場所づくり
- 事務文書の完全電子化、リモート勤務環境構築、ILLによる課金相殺制度の撤廃（各大学は複写料郵送費(切手代)を自己負担する仕組みを作り、国はその金額を大学からの申請に基づき、補助する）いわば国民の知る権利を国が保証する仕組みの構築が必要だと思います。あるいは現行の制度のまま、相殺結果で、赤字になった大学にはその金額を国が負担、黒字になったら、国がその黒字分を収入 という仕組みが構築される世の中になってもらいたいです。そんなことを意見交換できる会があれば非常に興味深く参加してみたいです。
- テーマ「富士通様の図書館システムの解説」
- 今年来年にも施行の「図書館等による図書館資料のメール送信等」について、（著作権法 第31条第2項等）詳細がまだ見えておらず、文化庁、文科省、著作権の専門家などから 情報提供の場、研修の場をCS研で企画していただければ幸いです。
- 対面も増えてきたと思うので、各図書館で、学生に利用してもらうための工夫とか、文化祭やオープンキャンパス等での催し物（ビブリオバトルとか、普段は公開していない場所へ行けるとか）を知りたいです。

■ CS研についてのご意見・ご要望について（抜粋）

- 難しいことと存じますが、事前に資料を送っていただけたら、予習ができるので、研修で重点的に聞きたい部分を考えてから研修に臨むことができるかもしれないと思いました。このたびはありがとうございました。
- 事前アンケートの結果を知りたいです。また、スライド等の資料は事前にいただけると助かります。